

札医大病院広報誌



C O N T E N T S

病院長あいさつ	2
お知らせ	
新任教授の紹介	3.4
医療トピックス	
当院へのご支援に感謝申し上げます	4
炎症性腸疾患に関する難病診療分野別拠点病院としての取り組み	5
高画質・低遅延でダヴィンチ手術を遠隔指導	6.7
呼吸器外科におけるロボット手術	8
労働災害・交通事故後の勃起障害の診断	9
各種ご案内	9.10

■ 札幌医科大学附属病院の理念 ■

札幌医科大学附属病院は、患者さんに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献することを目的とします。

■ 札幌医科大学附属病院の基本方針 ■

- 1 医療サービスの向上を図り、患者さんに安全な医療を提供します。
- 2 患者さんの人権を尊重し、十分な説明と同意のもとに医療を行います。
- 3 国内外に評価される高度な医療や臨床研究を積極的に行います。
- 4 教育を重視し、人間性豊かで信頼される医療人を育成します。
- 5 地域との連携を密にし、地域における医療、保健、福祉を支援します。

2021.2.VOL

札幌医科大学附属病院 公式ウェブサイト(URL)
<http://www.sapmed.ac.jp/hospital>

25

病院長挨拶

ごあいさつ

札幌医科大学附属病院 病院長 **土橋 和文**



病院広報誌（2021.2.VOL25）発刊にあたり、札幌医科大学 附属病院長として御挨拶を申し上げます。札幌医科大学は創立70周年を迎えました。附属病院は、「患者さんに信頼、満足、安心していただける安全で質の高い医療を提供するとともに、高度な先端医療の研究・開発に取り組み、人間性豊かな優れた医療人の育成に努め、北海道の地域医療に貢献すること」を揺るぎなき基本理念としています。高度医療に資する研究とその実践に取り組み、日本各地・海外で活躍する多くの医療人を輩出して参りました。殊に北海道の実地医療では卒業生・研修修了者が無二の存在として活躍いたしております。

さて、2020年は徹頭徹尾「コロナ」、医療人にとっては稀有なる一年でした。コロナ禍にあっては、正に「賄いきれない」ことへの想像と突破力が試されています。附属病院では、脈々と培われた医療人として責任感と連帯力が発揮され、感染対策・ECMOなどの救命救急と呼吸器診療・学術研究・シンクタンク機能が十分かつ即応力をもって発揮され、地域医療の要として存分に機能し、高い評価を得ています。

改めて、諸氏の粉塵のご活躍に感謝と敬意を申し上げます。

さて、当院は生まれ変わろうとしています。外形としての建物はもとより、内部の構成と質は圧倒的に変化しています。今回も広報誌にその一部を報告させていただきました。工事による運用病床の減数などご迷惑をおかけします。併せてご協力とご理解をお願い申し上げます。毎年お願い致すことですが、皆様の「お声かけ」は、私どもにとっては大切な励みであります。

何卒、忌憚なきご意見を頂戴いたしたくお願い申し上げます。

◆病院長紹介

【出身大学】

札幌医科大学（昭和56年卒）

【所属学会と資格】

日本内科学会会員・認定医・専門医・指導医、北海道地方会評議員
 日本循環器学会会員・認定医・評議員、北海道地方会幹事
 日本冠疾患学会会員・理事、日本心臓病学会会員・FJCC、日本心電図学会会員
 日本超音波医学会会員、日本不整脈学会会員・評議員、日本高血圧学会会員
 日本インターベンション学会会員および日本心血管カテーテル治療学会・評議員（平成17年まで）・指導医（132号）、
 日本透析療法学会会員、日本老年医学会・評議員、日本糖尿病学会、日本臨床スポーツ医学会など

令和元年度（2019年度）診療実績

入院	入院延患者数	257,198人
	1日平均患者数	702.7人
	新規入院患者数	19,255人

外来	外来延患者数	412,683人
	1日平均患者数	1,719.5人
手術	手術件数	7,998件
	1日平均手術件数	33.3件

お知らせ

■ 新任教授の紹介



血液内科 教授 小船 雅義

このたび、2020年4月1日付けで血液内科学の初代教授を拝命いたしました。

血液内科では、再生不良性貧血および骨髄異形成症候群などの貧血性疾患、血小板減少症および血友病などの凝固異常症、悪性リンパ腫および白血病などの造血器腫瘍性疾患に対する分子標的治療から造血幹細胞移植まで幅広く担当させて頂いています。その他、後天性免疫不全症候群の診療にも参画させて頂いております。私達は正確な診断と質の高い医療を提供するために、カンファレンスなどを利用して日々研鑽を続けています。また、地域の医療機関と連携して、血液疾患の治療を継続できるよう北海道の医療に貢献していきたいと考えております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

【出身大学】

札幌医科大学（平成2年卒）

【所属学会】

日本血液学会（評議員）、日本癌治療学会（代議員）、日本造血幹細胞移植学会、日本輸血・細胞治療学会、日本エイズ学会、米国血液学会

【免許・資格等】

日本血液学会（専門医、指導医）、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本エイズ学会（認定医）、ICD

■ 新任教授の紹介



総合診療科 教授 辻 喜久

2020年5月1日付で、札幌医科大学総合診療医学講座教授ならびに臨床研修医師キャリア支援センター長を拝命いたしました辻喜久と申します。

伝統ある札幌医科大学の一員に加えていただき、たいへん光栄で感謝の気持ちでいっぱいです。また、同時に責任の重さを痛感しております。今後は、札幌医科大学の発展、北海道の皆さまの健康福祉に少しでも貢献できるよう粉骨砕身の覚悟で臨むつもりでございます。

さて、私は米国留学中に忘れられない経験がありました。東北地方太平洋沖地震に際し、米国チームの一員として南三陸町へ派遣されました。停電でモニターや医療機器が役に立たない中、医療面接や身体所見だけで患者さんを診察しなければいけませんでした。毎日、スタッフと「機械に頼らない診療の基礎の力は大切だね。」と話したことを思い出します。

昨今のCovid-19の影響は大きく、変わらなければいけない部分も多いかと思いますが、それでも大切にしなければならない医学・医療の基礎は変わりません。こうした基礎を大切に、地域に貢献できる医師を一人でも多く育てていきたいと考えております。

まだまだ若輩ではございますが、今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

【出身大学】

高知医科大学（平成13年卒）

【所属学会】

日本内科学会、日本消化器内視鏡学会、日本医学教育学会、日本消化器病学会、日本感染症学会、日本臓器学会、日本腹部救急学会、プライマリーケア学会、国際臓器学会、米国臓器学会

【免許・資格等】

臨床研修指導医、OSCE認定評価者、臨床実習後OSCE認定評価者、日本内科学会 認定内科医、看護師特定行為研修 指導者 講習会 修了

お知らせ

■ 新任教授の紹介



薬剤部 部長 **福土 将秀**

この度、2020年4月1日付けで薬剤部長を拝命いたしました。

薬剤部では、「医薬品の安全管理と適正使用」を基本に据えて、薬剤師ひとり一人がくすりの専門家として多職種と連携を取りながら、最適な薬物療法を患者さんに提供することを目指して、日々の業務と自己研鑽に取り組んでいます。また、地域における薬学ケアの推進と保険薬局との連携の充実を図ることによって、地域医療の発展と患者さんのQoL向上に貢献していきたいと考えております。

一方、個別化治療を目指した研究にも積極的に取り組み、研究マインドを持つ優れた薬剤師「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成とエビデンスの発信を通して、世界からも注目される薬剤部・医療薬学を目指して行く所存です。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

【出身大学】

金沢大学（平成13年卒）

【所属学会】

日本医療薬学会、日本臨床薬理学会、日本薬物動態学会、日本臨床腫瘍学会、米国臨床腫瘍学会、日本TDM学会、国際TDM学会、他

【免許・資格等】

日本医療薬学会指導薬剤師・認定薬剤師、日本臨床薬理学会指導薬剤師・認定薬剤師

医療トピックス

■ 当院へのご支援に感謝申し上げます

昨今の新型コロナウイルス対応のため、本学及び附属病院へたくさんの企業様から医療支援物資、食料品等の寄付をいただいております。感謝申し上げます。みなさまのあたたかいお心遣いに、職員一同、大変励まされております。

また、多くの方々から医療従事者への感謝や応援メッセージをいただいております。併せて感謝申し上げます。ご寄付いただいた支援金や支援物資等は、医療従事者を中心に配付・利用させていただいております。

当院はこれからも患者さんに、安全で質の高い医療を提供するため、職員一同、力を尽くしてまいります。

ご支援いただいたみなさま方には心より御礼申し上げますとともに、今後の益々のご健勝とご活躍を祈念いたします。



医療トピックス

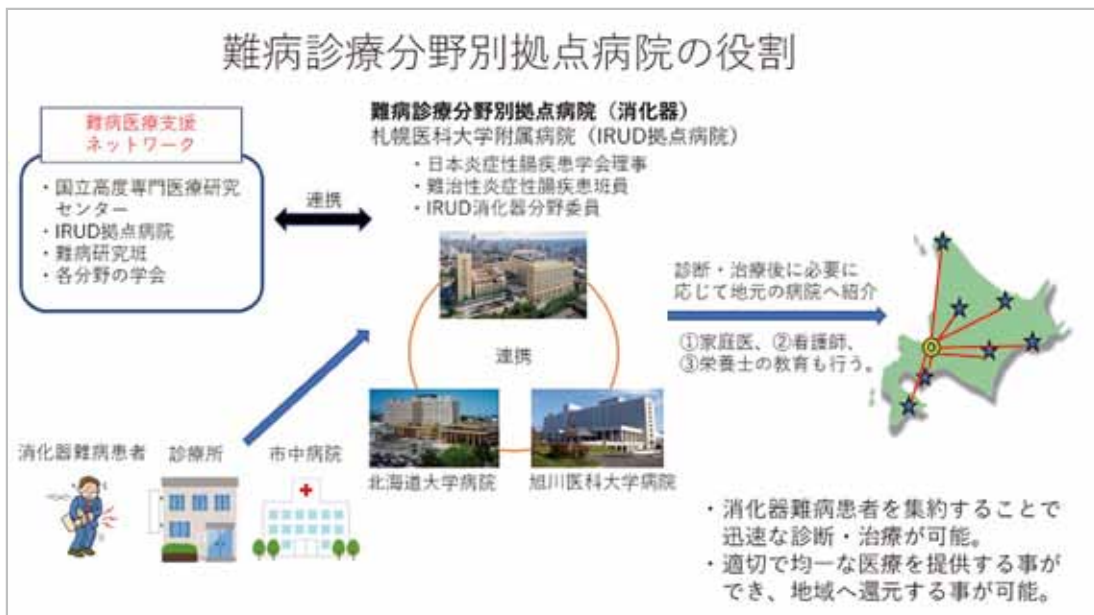
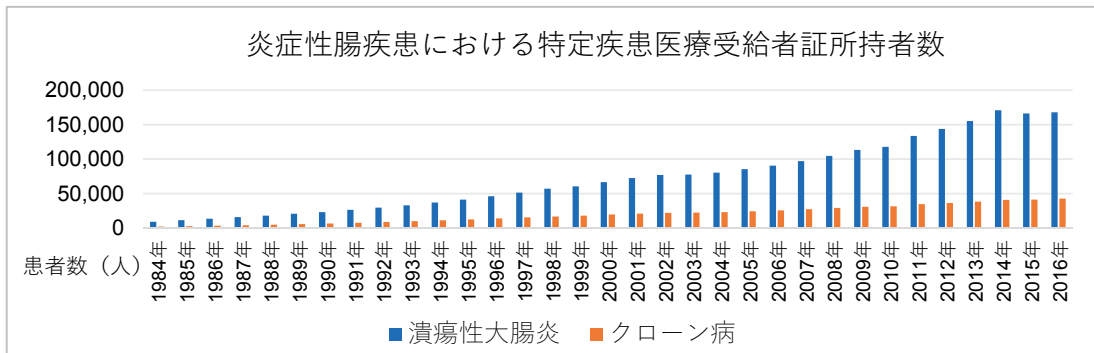
炎症性腸疾患に関する難病診療分野別拠点病院としての取り組み



消化器内科 教授 仲瀬 裕志
診療医 横山 佳浩

札幌医科大学消化器内科学講座は2020年10月11日に道内初、全国で2施設目となる「**炎症性腸疾患に関する難病診療分野別拠点病院**」に指定されました。

炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease: IBD) は腸管の慢性炎症性疾患であり、主に潰瘍性大腸炎とクローン病に分けられます。原因は不明であり、遺伝的素因、環境因子、腸内細菌叢の異常などによる多因子疾患とされています。若年者に好発し、腹痛や下痢、血便などの症状により患者さんの生活の質 (Quality of Life: QOL) を大きく損なう疾患です。IBDの患者数は徐々に増加しており、未だ完治する治療法は確立されていないため生涯治療の継続が必要となります。さらに近年では様々な生物学的製剤が使用可能となり患者さんの治療選択肢が増える一方で、治療方針の決定にはより専門的な知識が必要な時代となっています。道内にも多くのIBD患者さんがおられますが、IBDを専門とする病院が都市部に限られていることや北海道が広大であることから、長距離通院を余儀なくされる方も多いと思います。このような問題点を解決するため、当科が拠点病院となり、北海道のIBD診療の均てん化に向けた取り組みを行っております。具体的には、①家庭医と専門機関との連携強化、かかりつけ医で診療を受けられるシステム (病診連携) の構築、②IBD専門医の養成、コメディカル (看護師、薬剤師、栄養士) の教育、③最新のIBD治療に関する情報の発信を主な活動内容として取り組んでおります。道内全てのIBD患者さんのQOLを高く保てるような医療体制を早急につくることが我々の役割と考えております。



医療トピックス

高画質・低遅延でダヴィンチ手術を遠隔指導



消化器・総合、乳腺・内分泌外科 教授 **竹政 伊知朗**

はじめに～当診療科のご紹介～

当診療科は、『最新かつ安全確実な医療の提供』を目指して、個々の患者さんにきめ細やかに対応した治療を行っています。私たちは、専門的な医療技術・知識を身につけるための日々の研鑽はもとより、患者さん一人一人に真摯に向き合い、各疾患に対するプロフェッショナルな集団としてチーム診療することを大切にしています。

上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺内分泌の4チーム体制で、多領域にわたる疾患を手がけています。

根治性・安全性を第一に癌治療に取り組み、高度進行例や切除不能例に対しても決してあきらめずに、手術と化学療法を組み合わせた集学的治療を行い、治療成績向上に努めています。また、鏡視下手術やロボット手術を行うことで、最大限の治療効果を発揮しつつ、低侵襲性・整容性にも配慮しています。

最新トピックス

<手術支援ロボット ダヴィンチ専用手術室の開設>



ダヴィンチ専用手術室

2019年11月、当院では道内で初めて、手術支援ロボットのダヴィンチ専用手術室を開設しました。

当院にはダヴィンチを2台備え、前立腺、腎、ぼうこう、直腸、胃、肺、縦隔悪性腫瘍、子宮体部など、8種のがんに対し、より安全で低侵襲なロボット手術を実施しておりますが、中でも当診療科が行っている直腸がん手術は、年間140～150例の手術を行っており、19年度は100例をダヴィンチで行い、全国でも3番目に症例の多い施設となっております。

また、16年には、手術支援ロボットダヴィンチによる大腸がん手術の症例見学施設に認定されました。この認定にあたっては、医師のみならず、チーム医療としてダヴィンチ手術を安全かつ適正に運用していることも要件となっており、同手術における当診療科ス

タッフの習熟度とチームワーク、および他施設からの医師の受け入れ体制の整備等のポイントが評価され、症例見学施設として認定されたものです。

ダヴィンチによる大腸がん手術の症例見学認定施設としては国内で4施設目、北海道・東北エリアでは初となります。

<ダヴィンチ手術の技術指導>

私は日本内視鏡外科学会が認定する直腸がんのロボット支援手術のプロクター（手術指導医）の資格を有し、国内外の病院で、外科医にダヴィンチ手術の技術指導を行っています。

直腸がんのロボット支援手術が18年に保険適用になったことで、ダヴィンチ手術が全国的に普及しておりますが、良い手術結果を生むためには、十分なトレーニングを積むことが必須となります。

直腸がん手術は難易度が高く、術者や施設によって治療成績が大きく異なります。通常の腹腔鏡手術では到達しにくいような肛門近くの奥深い直腸でも、ダヴィンチ手術では容易に到達できる利点があり、根治性が高いだけでなく、排便・排尿・性功能などの機能温存の追求、および高い整容性と低侵襲性が期待されます。

症例見学施設として認定を受けたダヴィンチ大腸がん手術のエキスパート施設のひとつとして、ダヴィンチ執刀医の養成と、ダヴィンチによる大腸がん手術の普及に尽力してまいります。

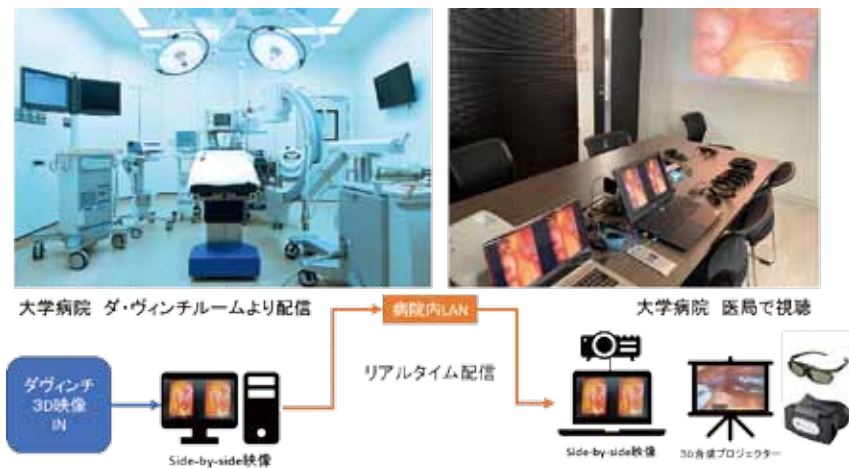
医療トピックス

<遠隔医療への取り組み～コロナ禍での活用期待>

ダヴィンチの指導医に認定されている医師をプロクター（手術指導医）といい、はじめてダヴィンチを使う医師は最初の数十例をこのプロクター立ち合いのもと行わなければなりません。私は、ダヴィンチのプロクター（手術指導医）として、全国の病院に出向いて外科医にダヴィンチ手術の技術指導を行っていましたが、直接病院に出向いての指導は、Covid-19パンデミック以後、かなり難しい状況になっています。

それでも患者さんにとって安全で低侵襲な手術を確実に行うためには、教育を進めなければなりません。そのため、私が指導先の病院の外科医に対し、札幌から映像を通して技術の指導や助言などがリアルタイムで遠隔指導できるよう、民間企業と共同研究を開始し、このたびその実証実験に成功しました。（※2020年11月24日にプレスリリースを実施）

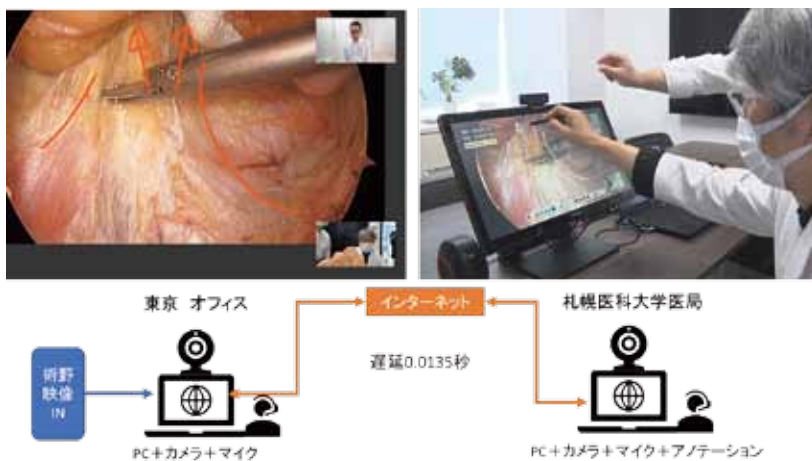
●実証実験1：ダ・ヴィンチ3D術野映像のリアルタイム配信



ダヴィンチ専用手術室より、教育用の手術用3D映像を配信し、本学別棟にある医局にて閲覧を行った結果、市販の3Dグラスをかけて見ることでダヴィンチの執刀医と同じ高精細術野を複数人数が同時に遠隔でリアルタイム閲覧できました。通信に使用するデータ量は3Mbpsと理論的には一般インターネット回線を介しても画質およびスピードを保つことができ、これにより、今後、遠く離れた遠隔地への3D映像ライブ中継、指導時の説明などが可能となります。

●実証実験2：内視鏡2D術野映像の双方向通信・会話・アノテーション表示システム

※アノテーション表示とは、動画上にテキストなどを表示する機能のことです。



当医局と民間企業（東京）の事務所を一般インターネット回線をつなぎ、双方向で会話を行いました。

東京のパソコンを手術室で執刀する研修医の術野と見立て、札幌の医局から竹政教授がダヴィンチ手術の技術指導をするという設定で、東京のパソコンから教材用内視鏡手術映像を配信し、札幌医局のノートパソコンで受信しました。

タッチパネルディスプレイに表示された内視鏡映像に、線や矢印を書き入れ、具体的にどちらの方向にどれぐらいの力で組織をけん引する

か、血管の位置や剥離を進める方向など、まるで隣で指導しているかのように指示することができました。

今後も、これらの成果を実用化につなげるべく研究開発を続け、質の高い安全なロボット支援手術を北海道から全国へ発信し、普及できるよう努めてまいります。

NHK全国放送で当診療科の取り組みが紹介されました！

2020年10月に、【北のブラックジャック 遠隔医療に挑む！】と題して竹政伊知朗教授を中心に行っている遠隔医療への取り組みがクローズアップされました。遠隔手術指導、機器開発などの様子が紹介されていますので、右のQRコードから当診療科ホームページをご覧ください。



医療トピックス

呼吸器外科におけるロボット手術

呼吸器外科 助教 榎 龍之輔

札幌医科大学呼吸器外科では、長らく胸腔鏡（カメラ）を用いた完全胸腔鏡手術（Complete video-assisted thoracic surgery, c-VATS）を行ってきました。2018年より肺がんと縦隔腫瘍（縦隔とは心臓や大血管・気管・食道など重要な臓器が存在する体の中心部分で、そこにできる腫瘍）に対してロボット手術が保険適応となり、当科は同年4月よりロボット手術を開始しました。2020年12月現在、肺癌に対する肺葉切除と肺区域切除、良性縦隔腫瘍、悪性縦隔腫瘍に対して保険診療でロボット手術を行っております。

これらの胸部手術では、肋骨に阻まれるせいで手術器具の挿入角度が制限されます。しかし、ロボット手術では多関節を有した各種器具により胸の中での操作性が格段に向上します。また、立体の高画質の画像や手振れ補正など、精細緻密な手術を手助けする機能が備わっています。肺癌に対するリンパ節郭清術や縦隔腫瘍においてロボット手術は特に有用であると考えられています。縦隔腫瘍に対しては、開胸術が必要な巨大な腫瘍を除き、2018年以降ほぼ全例ロボット手術を行っております。

当科にはロボット手術を執刀する医師が2名おり、両名ともプロクター資格（他の施設へ赴きロボット手術の指導をする資格）を有しております。現在、東京以北で最もロボット手術を行っており、2021年からは東京以北で唯一の見学教育施設になります。



当科におけるロボット手術と胸腔鏡手術を比較すると、手術時間や出量、合併症発生率に大きな差はなく、胸腔鏡手術と同様低侵襲（体に負担の少ない）手術と言えます。

ロボット手術の技術は日に日に向上し、低侵襲でより良い治療を提供できるよう日々研鑽しております。

ロボット手術にご関心の方は、当科までご相談ください。



医療トピックス

労働災害・交通事故後の勃起障害の診断

泌尿器科 講師 小林 皇

勃起障害とは「満足な性行為を行うのに十分な勃起が得られないか、または維持できない状態が持続または再発すること」と定義されています。勃起障害の有病率は加齢とともに増加しますが、若くして労働災害や交通事故など不慮な原因で勃起能を失うこともあります。生殖年齢において勃起能を失うことは大きな問題です。

このような病態で労災認定などに困っている方がいて相談されることがあります。その場合、我々は特殊な勃起能検査を行います。リジスキャンという装置による夜間陰茎勃起検査で、これにより器質性勃起障害が証明されることは労災認定にあたり認定基準として規定されています。夜間陰茎勃起とは、睡眠中のレム睡眠に一致して生じる周期的な生理的勃起のことです。事故等で神経などに器質的障害が発生しそのために発症する器質性勃起障害では、この夜間陰茎勃起が減弱ないし消失します。自賠責保険の後遺障害認定においても同様な検査が必要です。この検査は、必須の検査とされていますので、労災による勃起障害が疑われ、本人が認定をお考えの場合は、我々に相談ください。

リジスキャンは測定装置を太ももにまき、そこから伸びた測定用のリングを陰茎に装着し、睡眠中に夜間陰茎勃起を測定するものです。測定は3晩行いますので3泊4日の入院が必要です。入院中は、認定に必要な血管作動薬（プロスタグランジンE1）海綿体注射による勃起検査と、陰部周囲の神経学的所見の診察も行います。認定に必要な検査を行う特殊な検査入院ですので、他の検査や診療はこの検査入院中はできません。また、この検査で確認できるのは器質的な勃起障害があるかないかであり、災害・事故等との因果関係を証明する検査ではないこともご理解ください。



各種ご案内

札幌医科大学附属病院 ウェブサイトについて

当院Webサイトでは、各診療科の診療内容、関連部門の業務内容および各種ご案内などの情報を公開しています。

外来担当医表は、診療科毎に加えて一覧表を公開しています。なお、講義・学会・出張などの理由により担当医師が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

札幌医科大学附属病院 外来のご案内 入院のご案内 診療科・部門 病院概要 採用・募集 臨床研修 医療機関のかた

トップ > 診療科・部門

診療科・部門

ページ内目次 各診療科案内 中央部門案内

各診療科案内

- 診療科別診療内容一覧
- 外来診療受付一覧
- 外来担当医一覧表(印刷用)

内科

消化器内科	診療科概要 講座のホームページ	外来担当医表	スタッフ紹介
免疫・リウマチ内科	診療科概要 講座のホームページ	外来担当医表	スタッフ紹介
循環器・腎臓・代謝内分泌内科	診療科概要	外来担当医表	スタッフ紹介

URL <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/section/index.html>

札幌医科大学附属病院は、北海道の基幹病院として
新型コロナウイルス感染症に対し一丸となって治療に邁進しています



高度救命救急センター

交通のご案内

- 地下鉄：東西線 西18丁目駅下車
(5、6番出口から徒歩約3分)
- 市電：西15丁目駅下車 (徒歩約3分)
- バス：札幌駅から (JR北海道バス)
 - ・啓明線[51]「医大病院前」下車
 - ・啓明線[53]「南3条西16丁目」下車
 桑園駅から (JR北海道バス)
 - ・桑園円山線[桑11]「医大病院前」下車



※本院の駐車場は大変混み合います。ご来院時はできるだけ公共の交通機関をご利用いただくことをお勧めいたします。



札幌医科大学附属病院

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

E-mail: kouhou-byouin@sapmed.ac.jp (ご意見・ご感想をお寄せください)

ウェブサイト: <http://web.sapmed.ac.jp/hospital/>

編集: 札幌医科大学広報委員会病院広報部会